

日本インスティテューショナル・リサーチ協会と MJIR の連携について

森 雅生・大石 哲也（東京工業大学）

1. はじめに

大学情報・機関調査研究会（当初は研究集会としていました）は、2019年10月に設立された日本インスティテューショナル・リサーチ協会（以下 IR 協会）と合流し、運営に関して同協会の MJIR 実行委員会と位置付け、活動をさらに発展させていこうとしています。これを機に、参加者に MJIR の成り立ちや背景をお示しし、今後の発展の参考になればと考え、この記事を投稿しました。

2. 背景

MJIR (Meeting on Japanese Institutional Research) の発端は、平成 19 年 (2007 年) から行われている大学評価担当者集会 [1] (以下担当者集会) です。担当者集会は第 5 回まで九州大学で行われておりました。

当時、森は同大学の大学評価情報室に在籍し、担当者集会事務局の仕事の一部を担っていました。当時、評価業務やそれに関わる IR について、実務者として活動しておりましたが、この仕事は単なる事務作業と言うには非常に困難なものであることを認識していました。データ収集や分析、評価書の作成など、ほぼ論文執筆に近い素養が必要であるためです。森は当時の同僚 (高田 英一氏・現神戸大学准教授ら) とともに、評価・IR 業務担当者には教員格での雇用が不可欠であろうと認識しており、教員の立場でも評価・IR に従事し、研究発表同様に成果を発表する場をつくる必要があると考えておりました。

発表の場として提案したのが、平成 21 年 (2009 年) 第 3 回目の担当者集会におけるポスター発表です。意外に多くの発表申し込みがあり、需要があると見込みました。その後も、担当者集会は評価初任者研修を中心にコンテンツを提供しつつ、先進的な評価の取り組み・IR 活動を発表するポスターセッションが行われました。

2012 年 (平成 24 年)、IR の高度化・国際化への寄与するため設立された国際学術会議 International Conference of Data Science & Institutional Research (DSIR) [2] の創設とともに、上に述べた担当者集会におけるポスターによる研究発表を、さらに研究会の形に発展させたのが、この MJIR です。MJIR は国内向け、DSIR は国際的・先進的な IR 活動の発表の場としてジョイント開催されました (2016 年まで)。

2017 年以降は、IR の需要が最も大きな都心をメインとして集会を開催しています。こうして、MJIR は大学職員・IR 従事者を始め、教育学・情報学の研究者や関連企業で関心を持つ方々など、参加者を多様に増やして行きながら運営されています。都心での開催理由として、それまでは DSIR が地方で開催されていたため、参加しにくいというコメントがありました。都心にすることで交通の便がよく、地方大学の方でも参加しやすいこと、さらに、都心の多くの私立大学で IR の導入に拍車がかかったことが挙げられます。

3. IR 協会の創設

日本インスティテューショナル・リサーチ協会[3]（以下、IR 協会）は、2019年10月に設立されました。その母体となったのは、関東地区 IR 研究会です。これは2016年ごろから関東地区の大学の IR 担当者を中心に構成された任意の団体で、2017年にその研究成果として「大学 IR スタンドアード指標集（以下、指標集）」（玉川大学出版部）[4]という書籍を執筆・出版しました。これまで幾つかの IR に関する出版は散見されたものの、IR で活用される指標を集積し解説した実用的な書籍として、注目されたと思われます。

指標集の執筆者たち、および研究会の参加者たちは、研究会を関東地区だけでなく全国に広げようという考えのもと、協会設立の準備を始めました。これまで学協会や政府機関が支援する、または、ボランティアな団体による IR のイベントやネットワークはありましたが、IR 実務そのものを主眼とした実務者による継続的な活動を行う団体はありませんでした。また、海外の IR 協会は日本の動向をモニタリングしていました。IR に関する国際交流の窓口がなかったことも挙げられます。こうして IR 協会は、IR 実務者が IR そのものを活動の中心に据えた団体として発足したのです。

4. MJIR と IR 協会

上に述べたように、MJIR は国内の先進的な IR 活動について研究発表を通じ、IR に関わる教職員や関係者の間での交流を促進しネットワークを形成することが目的です。IR 協会も、同様の目的で設立されました。違いは、MJIR は論文集を出版していること、IR 協会は IR 実務者と IR を活用して大学をより良くするという広い目的があることです。IR 協会のその広い目的の一つとして、MJIR の活動が位置付けられるのであれば、合流して進んでいくべきであろう、という判断のもと、第9回目以降の MJIR を IR 協会の活動の一つとして開催することにしました。もともと、MJIR の運営委員の多くが IR 協会の中心メンバーとして設立に貢献したことも事実です。

今後は、この連携により MJIR が新しい展開を見せていくことは間違いありません。参加者の皆さんにもご理解いただき、大学がより良くなるための IR の発展をともに進めていきたいと考えております。

【参考文献】

- [1] 大学評価コンソーシアム, <http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache>
- [2] International Conference on Data Science & Institutional Research, <http://www.iaiai.org/conference/aai2020/conferences/dsir-2020/>
- [3] 日本インスティテューショナル・リサーチ協会, <https://jairweb.jp/>
- [4] 関東地区 IR 研究会監修, 大学 IR スタンドアード指標集, 玉川大学出版部, 2017年.